

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名	都市計画道路 徳島東環状線 <small>とくしまひがしかんじょうせん</small>		事業区分	(街路) 県道	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島市末広2丁目 <small>とくしましすえひろ</small> 至：徳島市住吉6丁目 <small>とくしましすみよし</small>				延長	1.77km
事業概要 ：本路線は、外環状道路の一部を形成し、一般国道11号、同55号のバイパス的機能を持つ、徳島市内の渋滞対策の中心的役割を担う道路です。末広大橋北詰から吉野川南岸堤防までの当区間については、安全で円滑な交通や定時性を確保するため、側道付きの高架構造としています。また、当工区内、末広2丁目～元町沖洲線間L=0.7kmは、平成9年度に地域高規格道路の整備区間に指定されています。						
平成7年度事業化 (平成11年度変更)		平成6年度都市計画決定		平成8年度用地着手		平成8年度工事着手
全体事業費 ：450億円		事業進捗率 ：67%				
計画交通量 ：25,000台/日						
費用対効果分析結果	B/C ：(事業全体) 2.34 (残事業) 7.84	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 151.01 / 506.58 億円 事業費：149.49/505.06 億円 維持管理費：1.52/1.52 億円	総便益 ：(残事業)/(事業全体) 1,183.67 / 1,183.67 億円 走行時間短縮便益：1,068.66/1,068.66 億円 走行費用減少便益：84.19/84.19 億円 交通事故減少便益：30.82/30.82 億円	基準年 ：平成16年		
感度分析の結果 ：交通量変動 +10%(-10%) B/C=2.3(2.5) 事業費変動 +10%(-10%) B/C=2.1(2.6)						
事業の効果等 ：1. 活力：徳島市市街地の外環状道路として、高い規格の高架構造としており、円滑なモビリティが確保できることにより、徳島市中心市街地における活力向上に資する 2. 暮らし：現道沿道の騒音、交通事故などの生活環境が改善するとともに、大量の自転車交通（道路周辺の文教施設の自転車通学が主体）に対する快適性、安全性の向上に資する 3. 安全：2次緊急輸送路としての信頼性を向上するとともに、災害時にはバッファゾーンとして機能することで安全で安心な市民生活の形成に資する 4. その他：四国横断自動車道の徳島東IC（仮称）やマリンピア沖洲へのアクセスが大幅に向上することなど、大規模プロジェクトを支援する道路である。本事業は道路整備プログラムに位置付けされている。						
関係する地方公共団体等の意見 ：本道路は「徳島県道路整備プログラム」に位置づけられ、早期完成が望まれている						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ：四国横断自動車道徳島東IC（仮称）計画及びマリンピア沖洲二期事業計画に加え、元町沖洲線、東吉野町北沖洲線などの放射道路の整備も急速に進められており、これらのネットワーク化を図る意味でも本路線の早期完成が望まれている。また、幹線道路ネットワークの形成を目的に藍住ICと徳島東ICが地域高規格道路となり、平成9年に末広～自宅間約0.7kmが整備区間として指定された。さらに、本路線は緊急輸送路として南海地震等の災害時には輸送路としての役割が期待される。また、本路線の周辺地域における土地利用は、住宅を主体としながら小中学校、高校等の文教施設が集中するといった状況であるが、本路線の完成が遅れることで交通の細街路流入などによる良好な住環境や安全な交通環境を損なうことの無いように、生活幹線道路としての機能からも早期に完成させる必要がある。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 ：高架橋の工事進捗を図り、平成23年度の完成を目指す。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ：引き続き工事進捗を図り、放射環状道路網の整備及び大型流通港湾へのアクセス強化等、平成23年度の完成供用を目指す。						
施設の構造や工法の変更等 ：特になし						
対応方針 ：継続						
対応方針決定の理由 ：徳島市内の渋滞対策および安全で安心な住民生活の形成のため、事業を継続して完成させることの効果が大きい。						
事業概要図						

※総費用、総便益とその内訳は、各年次における値を割引率を用いて基準年における価値に換算し累計したものである